

わが子に合う大学はどう選ぶ？

保護者のための 最新大学情報

多くの大学が、社会の変化にあわせた学びを提供しようと
さまざまな改革に取り組んでいます。
保護者の時代からどう変化している？ わが子に合う大学は？
後悔のない進路選択ができるよう、保護者の方も一緒に、
それぞれの大学の最新事例に注目していきましょう。

保護者のギモンに専門家がアドバイス
大学選びQ&A集 p.36

大学教育 最新情報 Trend of University

キャリア教育

國學院大學 p.40

新しい学び

大阪電気通信大学 p.42

成蹊大学 p.44

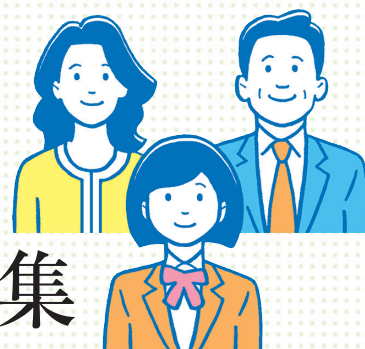
千葉商科大学 p.46

東洋英和女学院大学 p.48

新しい入学者選抜

神奈川大学 p.50

保護者のギモンに専門家がアドバイス



大学選びQ&A集

どんな大学や学部に進学するかは、高校生にとって今後のキャリアや人生に関わる大きな選択です。特に学部・学科の多様化など大学の変化が著しい現在、その選択はより悩ましいものになっています。そんなわが子に対し、保護者はどのようにサポートをしていけばいいのでしょうか。よくある悩みや相談事をピックアップし、専門家が回答します。



大学選びに

保護者はどのように関わればいい？

A

保護者はいわば「ツッコミ役」。大切なのは「答え」ではなく「問い」

った事態にもなりかねません。

高校生はまだ社会のことをよくわかっていません。保護者としては、心配になって、積極的にわが子の進路選択に干渉したくなるのは無理のない話です。ただし、心配なあまり、保護者が自分の意見を子どもに押し付けたり、無理に誘導しようとしたりするのはNGです。

大学・学部選びは高校生にとって、自分の進路に関して主体的に調べ、考え、決断する貴重な成長の機会です。それを奪ってしまうのはもったいない。また、高校生が自分のやりたいことより保護者の意見を優先した場合、進学後にアンマッチが起こるリスクも高くなります。

かといって、すべてを本人に任せて放っておくだけでは、一向に動き出さず、出願直前にバタバタしながら適当に進路を決めてしまうという事態にもなりかねません。

そこで、私が提案したいのは、保護者が本人の選択を助ける「ツッコミ役」になることです。まずは子どもに自分で考えさせる。そのうえで子どもが出した意見に対して、「それはほかの学部でも学べるんじゃない？ そっちは調べてみた？」などの問いを重ねることによって、本人のリサーチや思考のブラッシュアップをサポートするのです。このステップをしながら、本人の主体性を尊重しながら、自分に合った進路選択につなげていくことができます。



最新の大学事情はどうやって調べればいい？

A

ジャンルの異なる複数の大学・学部に関して深く調べる

大学での学びは大きく変化しています。保護者世代の学生時代の知識・経験だけでは子どもへの適切なアドバイスが難しくなっているのは事実です。ですから、子どもと共に保護者も大学の最新動向を把握しておくことは大切です。

しかし、今の大学は多様化が進んでいるので、すべての情報を網羅的にインプットすることは不可能。そのため、まずは気になる大学・学部、あるいは原内など身近な大学に絞って、パンフレットやWebサイトで、教育内容・カリキュラムなどをじっくりリサーチしましょう。オープンキャンパスがあれば足を運んでみるのもいいですね。ジャンルの異なる複数の大学に関して深く調べていくと、最新の大学動向の相場観が見えてくるはずですよ。できれば、子どもが高1の段階でこのようなりサーチに着手できれば、情報不足で選択を誤るリスクは減らせます。



回答してくれたのは…

進路アドバイザー
倉部史記氏

企業広報のプロデューサー、私立
大学専任職員、予備校の総合研
究所主任研究、大学連携プロデ
ューサーなどを経て、現在はフリーラ
ンス。著書に『看板学部と看板倒
れ学部』（中公新書ラクレ）など。

学部・学科がたくさん あってどう選べば

いいのかわからない



今や、かつては存在しなかった名
称の学部・学科が増加し、選択肢
が多すぎるといふ悩みも増えてい
ます。保護者世代は昔からある法
学部、経済学部などが安心だと考
えがちですが、よく知らないからと
他を切り捨てるのもつたいない。
そこでお勧めしたいのは、ざっく

り2系統に学ぶ分野を分けて考え
ることです。一つは「山登り型」。医
学部や看護学部などがその例です。
将来の職業が決まっています。そのゴ
ールを目指して学ぶタイプです。こ
の場合、まずは目指す職業につい
て内容や社会的ニーズなどをしっ
かり調べることから始めましょう。

もう一つは「ジャングル探索型」。興
味があることをとっかかりに学びの
ジャングルに踏み込んでいき、学ぶ
なかで新しい発見をし、やりたいこ
とが見えてくるというタイプです。
多くの学部はこちらに属します。
こちらで重要になるのは本人の興
味・関心。それが環境や地域でも、
あるいはゲームやマンガでも構いま
せん。その興味・関心にフィットする
学部・学科名を探すところから始
めてみましょう。



「山登り型」と「ジャングル探索型」 の2系統に分けて考えてみる



やっぱり偏差値や 知名度は 重視したほうがいい？



大学の偏差値や知名度より 本人の希望や適性を重視したい

もちろん、大学の偏差値や知名
度が高いほうが保護者としては安
心できるという考え方を安易に否
定することはできません。しかし、
だからといってそれだけにとられ
て大学・学部を選ぶのはリスクが高
いといえます。

メリットは意欲的に学んで成長でき
た結果、享受できるものなのです。
特に保護者世代は知名度の高い
大規模総合大学に魅力を感じる
ことが多いですが、小規模校にも、
一人ひとりへのきめ細かいケアやサ
ポートがしっかりしているといったメ
リットがあります（もちろん個々の
大学によりますが）。そういった点
も意識しつつ、まずは、「本人が何
に興味があるのか」「本人にどんな
環境が合うか」といったことを重視
することのほうが大切です。





将来の夢がまだ

決まっていないわが子… 何学部を目指せばいい？



A

「ジャングル探索型」に絞って 現在の興味・関心を軸に考える

本人が将来目指す職業が、まだ決まっていないなら、前のQでお伝えした「山登り型」の分野は除外して考えたほうがいいでしょう。例えば、看護師になりたいと思っていなのに看護学部に進学すると、途中で「やっぱり向いてない」となったときに方向転換ができません。

ですから、「ジャングル探索型」から選択することになります。その場合は、前のQでも回答したとおり、本人の興味・関心がとっかかりです。「それだと、将来の仕事につながるだろうか？ ゲームやアニメ

しか出てこないのでは？」という保護者もいるでしょう。しかし、これも前述のとおりそれでもいいのです。大学での学びは懐が深く、多様です。例えば「KPOPが好きだから国際系の学部に進んで韓国関連の科目をたくさんとっている」「ゲームが好きだから、経営学部でゲーム業界のビジネスについて学んでいる」という学生もいます。

どの学部で何が学べるかを決めてかからず、自分なりのキーワードを糸口に検索してみる。この方法なら意外な発見もあるはずですよ。

受験科目が少ない

という理由で大学を 選んでいいもの？



卒業生の進路や 就職率は

どこまで重視する？

A

キャリアセンターの支援なども 含めて総合的に判断するべき

保護者としては、卒業生の進路や就職率などは当然気になることです。どちらも開示している大学が多いですから、大学選びの判断材料の一つとして参考にするといいでしょう。なお、大学院進学率が高いために卒業生の就職率があまり高くないというケースなどもあるので、注意が必要です。

また、就職に関してはキャリアセンターのサポート体制も大学によって差があるので重要なチェックポイントです。就活対策セミナーや個別カウンセリングの充実度など取組内容を細かく確認しましょう。

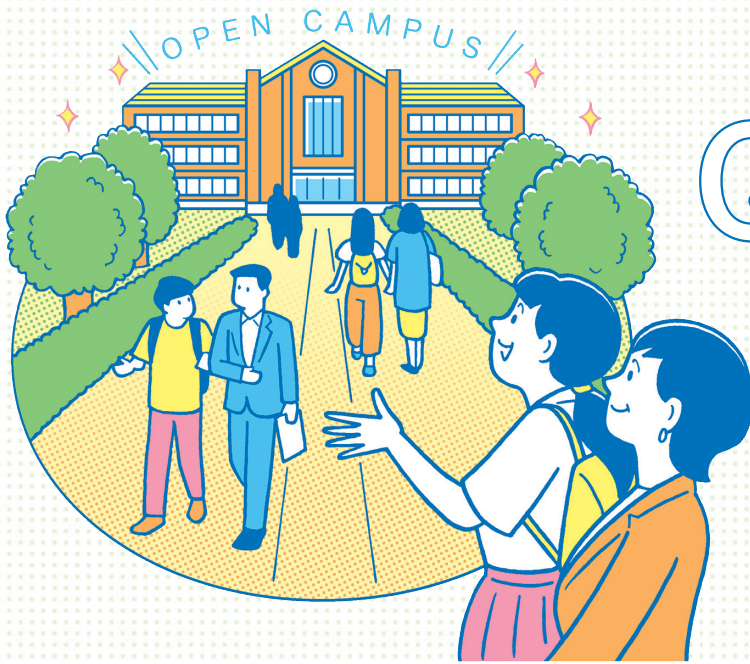
そして、再三お伝えしているとおり、本人が意欲的に学べる分野・環境であることが、結果としてよい就職にもつながるということを意識してほしいですね。

A

受験科目を絞り、他を切り捨てると 大学入学後の学びに悪影響あり

近年は、大学入試の多様化も進み、1、2科目などの少ない科目で受験できる大学も増えていきます。しかし、「楽そうだから」という理由で、安易に少数科目で受験できる大学・学部を選ぶことはお勧めできません。合格はできたとしても、入学後の学びに影響があるからです。

例えば、経済学部では受験に数学は課されないことも多いですが、入学後の学びに数学は必須。同じようなことは他の学部でもあります。文理融合型の学部も増えていきます。ですから、大学受験以前に高校の文理選択の段階で幅広い学びを意識してほしいですね。「自分は私立文系志望だから」と数学や理科を早い段階で切り捨ててしまうと、大学・学部選びの際の選択肢を自ら狭めてしまうことになりかねません。



Q オープンキャンパスは 保護者が同行 してもいい？

A 大学側も保護者同行を前提で
開催しているので問題なし

自分たち世代の感覚からすると、「オープンキャンパスについていくのは過保護では？」と感じる保護者も多いかもしれません。しかし、今は大学側も保護者が同行することを前提でオープンキャンパスを開催していますし、実際に同行する保護者も多いですから、その点は気にする必要はありません。そもそも

大学選びの意思決定に保護者は関与するわけですから、不安を解消する機会にするといでしょう。そこで大切になるのが大人ならではの視点です。高校生はキャンパスの立地や施設・設備、先輩たちの人柄などに目が行きがち。保護者はその補完役として、例えば、職員が担当する相談ブースで、奨学金

制度やキャリアセンターの取組といったことを細かく確認するといでしょう。教育内容について理解を深めたいなら、研究室棟に研究室ごとに掲示されている研究発表ポスターを本人と一緒に見て回るのもお勧めです。また、相談ブースで他大学の同系統の学部との違いなどを質問すると、比較検討の材料にもなります。なお、オープンキャンパスは高1の夏などできるだけ早い時期から、なるべく複数の大学を訪問することをお勧めします。

Q 今、社会的ニーズが 伸びている分野に こだわるべき？

A 社会的な人材ニーズには
流行り廃りがあるので要注意

今であれば、例えばデータサイエンスやAIなどが社会的に注目されている分野で、関連する大学の学部・学科新設も増えています。卒業後の就職を意識するなら、こうした人材ニーズが伸びている分野に関連する学部がいいだろうと考える保護者は多いのではないのでしょうか。もちろん本人がデータサイエンスやAIに興味があるなら何の問題もありません。

しかし、本人の興味・関心を度外視して、社会的ニーズ優先で決めることは、再三お伝えしているとおりお勧めできません。そもそも、人材ニーズには流行り廃りもあります。今、ニーズが急騰している分野でも、数年後には供給過多になる可能性だってあるのです。それでも生き残るのはその分野が好きでスキルを磨いてきた人たち。やはり興味・関心が第一なのです。

← ギモンが解消できたら次ページ以降で個別の大学についてチェックしてみましょう